

PART 1

子ども編：パパママ気をつけて！

中毒110番・防ごう子どもの誤飲事故



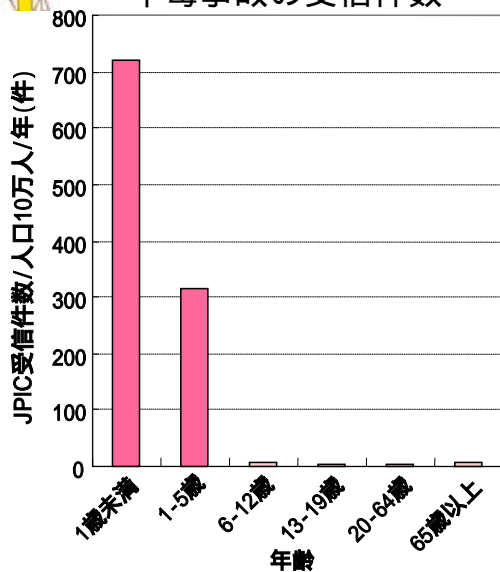
「はいはい」や「伝い歩き」をするようになると、子どもは手に触れたものを何でも口に入れるようになります。どのような製品で事故が起こっているのでしょうか？



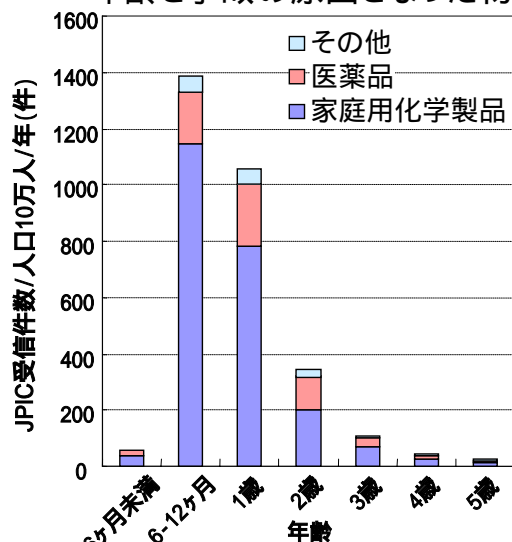
1歳未満と1～5歳の子どもは、他の年齢層と比べて中毒事故が大変多く発生しています。また、中毒事故の原因となる物のほとんどは、家庭用化学製品(タバコ、洗剤・洗浄剤、殺虫剤など)と医薬品で、いずれも私たちの身近にある製品です。



患者の年齢と中毒事故の受信件数



子どもの中毒事故 年齢と事故の原因となった物



(財)日本中毒情報センター受信状況より



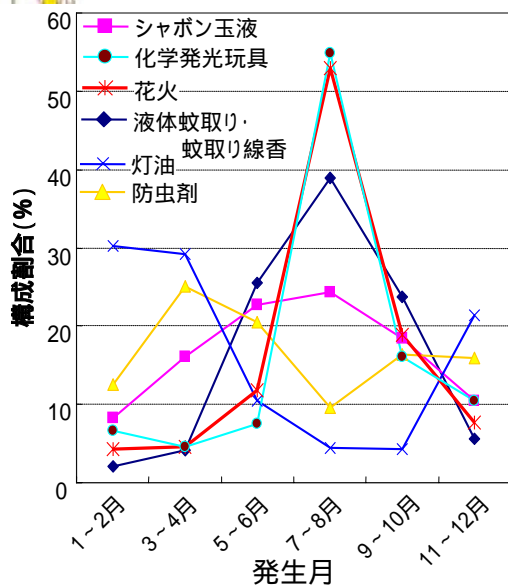
子どもの成長にともなって、起こりやすい中毒事故も異なります。
年齢別に起こりやすい事故の特徴をみてみましょう。

年 齢	注意すべき対象 (後始末や保管管理)
寝返り・「はいはい」の頃 (5ヵ月～1歳頃)	床や畳など、低い位置のものに注意 タバコや吸殻、床の上のホウ酸団子や液体蚊取り おもちゃ代わりに持たせたおむつかぶれの軟膏や保冷剤
つかまり立ち・ よちよち歩き頃 (1～2歳頃)	子どもの目線の高さにあるものにも注意 洗面台や流しの下洗剤、ポリタンクの灯油ポンプ 防虫剤、鏡台の化粧品、シャボン玉液などのおもちゃ
おおむね2歳以上	高い場所にも注意が必要 (行動範囲が広がります) 頻繁に手にするおもちゃ、 食品と似ている薬やアルコール飲料なども要注意 棚の上の救急箱、引き出しの中の薬 冷蔵庫の中のシロップ薬、流し台で漂白中のコップ 化学発光玩具、缶入りアルコール飲料

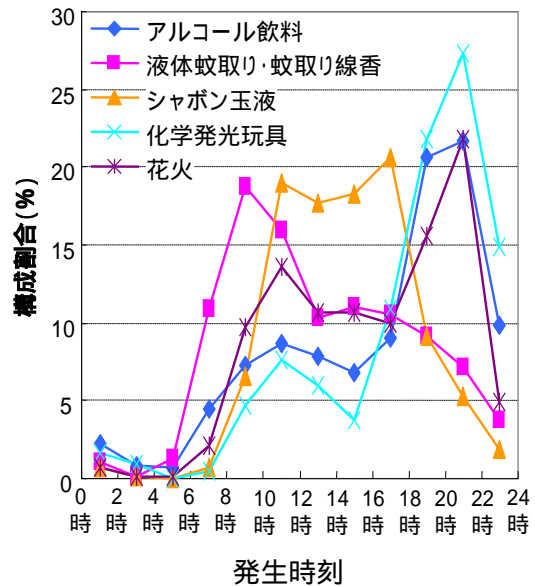
子どもは、身の回りにある物を手に取って口に入れるので、その製品を実際に
使用する季節や時刻に事故が発生します。
事故が発生する季節、時刻に特徴がある物には以下のようなものがあります。



発生月に特徴がある物



発生時刻に特徴がある物



子どもの中毒事故を予防するためには、以下の5つが大切です。
「家庭内での中毒事故防止チェックリスト」で、家庭における現在の危険度を
チェックしてみましょう！



1. 使用中は子どもを意識する
2. 使った後はきちんと片付ける
3. 保管方法を工夫する
4. 対象年齢を守る
5. 危ないものを子どもに教える

「家庭内での中毒事故防止チェックリスト 子ども編」は次ページです

家庭内での中毒事故防止チェックリスト

の事項について、「はい」に該当すればチェック☑します。

☑の数が少ないほど危険です。協力して☑を増やしましょう。

中毒 110 番 市民向け啓発教材 みんなで防ごう！身近な中毒事故 手引書 より

子ども編

1. 使用中は子どもを意識する

塗り薬や保冷剤などをおもちゃ代わりに持たせることはない

床や畳に置いている液体蚊取り、ホウ酸団子を子どもがすぐに見つけて口に入れることを意識して、

子どもがいる所では使用しないようにしている

化粧品は子どもの前で使用しないようにしている

化粧品の中ではマニキュア、除光液、香水、染毛剤は特に危険であることを知っている

電化製品のリモコンやおもちゃなどの電池ボックスの蓋(ふた)は、確実に閉まっている、

電池ボックスのネジは緩んでいない



2. 使った後はきちんと片付ける

タバコはもちろん吸殻が入った灰皿も子どもの手が届かない場所に片付けている

タバコや薬の入ったバッグ類にも注意して、片付けている

灯油の給油ポンプ、ポンプ受け、ポリタンクは子どもの手が届かない場所に片付けている、

玄関などに放置していない

3. 保管方法を工夫する、子どもの成長に応じて保管場所を変える

洗剤、カビ取り剤、漂白剤、トイレ用・パイプ用洗浄剤などを保管している洗面台や流し台の扉には

安全グッズなどを使用して、子どもが開けられないようにしている

子どもが台に上って、高い場所にある化学製品を手取ることを意識して、

テーブルの上や棚の奥であってもタバコや薬などは置かないようにしている

4. 対象年齢を守る

おもちゃの外装に表示された「対象年齢」を守っている

5. 危ないものを子どもに教える

錠剤やシロップなどのくすりやアルコール飲料は、

菓子やジュースではないことを子どもに教えている

